

ダビデ誕生への 系図を繋ぐボアズとルツ

ルツ記4章1～17節
2022年9月11日
松田 基子 師

聖書は神様の御心、神様の思いを人間にどの様にして伝え得るか、その事が記されています。神様は世界を創造され、その世界を麗しく保ち発展させるために、ご自身の御心を託す事の出来る存在として、私達人間を創造されました。愛を性質とされている神様は、人間も神様に対して愛をもって聴き従い、そこに産み出される愛の築き合いで世界は愈々麗しく成長して行くことが、神様の御計画でした。

神様は人間を愛するゆえに、愛の基本である**自由意志**を人間に与えられましたが、人間はその自由意志によって選択を間違えてしまいました。愛とは、相手に対する全信頼です。人間は誘惑者の言葉に依って神様を疑いました。その疑いは神様を正しいとするのではなく、**自分の考えを正しいとする自己中心**でした。それが神様に対する罪です。

罪は神様との関係を切ってしまいました。人間は神様との関係が切れてしまえば、永遠の滅びに向かう以外にありません。愛なる神様は、滅びに向かう人類をお見捨てになる事が出来ませんでした。そして、神様は罪に汚れた人類を救う御計画をお立てになりました。人類の罪を解決するためには、全人類の罪の負債が清算されなければなりません。全ての人間は、生まれながらに罪への傾向を持っており、罪の無い人は、誰一人として居ません。人間の側には救いの道は無く、神様の側からの憐れみに頼る以外にありません。神様はその為に全人類の価値に勝る罪の無い神の御子を人類の贖い主として、この世に誕生させることを決意なさいました。その救い主、誕生こそが、人類に与えられたたった一つの救いの道でした。

その救い主、**メシア**が現れる約束を記したものが**旧約聖書**です。神様は救い主誕生のために、神様の呼びかけに応答し、心から神様を愛し、全信頼し、自分の全存在を掛けて従った

イスラエル人の祖、アブラハムをお選びになりました。神様はアブラハムに、創世記22章17節で、

「あなたを豊かに祝福し、あなたの子孫を天の星のように、海辺の砂のように増やそう。あなたの子孫は敵の城門を勝ち取り、地上の諸国の民は全てあなたの子孫によって祝福を得る。あなたがわたしの声に聴き従ったからである」

と約束されました。この**神様とアブラハムとの関係こそが**、神様が人類救済のために、神の御子を救い主メシアとして、この世に誕生させるその**歴史を担って行く人物**としてお選びになる要件でした。

アブラハムの子孫は、約束のように、天の星のように、海辺の砂のように、一つの民族を成して行きましたが、彼らの殆どは、出エジプトをしたイスラエル人が、40年の荒れ野での神様の訓練に耐えることが出来ないで、神様の愛を疑い続け、眩き続けたように、自己中心で、神様の約束を担って行くに足る人は居ませんでした。その様な中で、神様はご自身の呼び掛けに、心からの愛をもって、**全存在を賭けて聞き従う人物**を見つけ、**救い主誕生への命を繋いで**行かれました。

神様はなんと、アブラハムからイエス・キリストの誕生まで、2千年をかけて、アブラハムに続いて神様を愛し、全存在を以て従う人物を捜し出して、救い主誕生への、命を繋ぐ系図を導かれました。マタイによる福音書1章を見ますと、標題には、

「**イエス・キリストの系図**」

とあります。1章1節には、

「**アブラハムの子ダビデの子
イエス・キリストの系図**」

と記されています。神様はアブラハムに祝福の源となるように、

「**地上の諸国民は全てあなたの子孫によって祝福を得る**」

と約束されましたが、アブラハムには、神様がお与えになる究極の祝福が何であるかは分かっていませんでした。祝福の輪郭が与えられたのはダビデです。

ダビデもまた、神様を心から愛し、全存在をもって神様に応えました。神様はそのダビデに、サムエル記下の、7章16節で、

「あなたの家、あなたの王国はあなたの行く手にとこしえ続き、あなたの王座はどこしえに堅く据えられる」

と約束されました。そこには永久の王である神の御子の誕生と、神の国の予表が示されていました。そのアブラハムからダビデへと命を繋いで行くために神様は、ご自身を心から愛し、自分の全存在を賭けて従っていく男女を夫婦となるよう導かれました。

ところで、神様の御心は全世界の人を救いたいと、世界の歴史を導いておられるのですが、イスラエル人たちは、自分たちの選びがそのためのパイプ役であることを忘れ、外国人を軽蔑しました。神様は彼らが、異教のよそ者と軽蔑するモアブの女性ルツを、彼女の神様に対する愛と信頼に答えて、人類救済史を導くためにお選びになりました。

ルツが真の神様を知ったのは、姑のナオミの導きによるものでした。ルツは無一物になったナオミが寄留地モアブから故郷ベツレヘムに帰るに際して、ナオミを見捨てず、

「あなたの民は私の民、
あなたの神は私の神」

と言って、主なる神様への信仰を告白し、ナオミについてベツレヘムにやって来ました。ルツはナオミを養うために神様の導きで、ボアズの畑の落ち穂拾いを始めました。ボアズは神様を崇める、偏見を持たない、親切で高潔な人物でした。

ルツに対する親切に、彼女が感謝を述べますと、ルツ記2章12節で、

「どうか、主があなたの行いに豊かに報いてくださるよう。イスラエルの神、主がその御翼のもとに逃れて来たあなたに十分に報いてくださるよう」

と真心をもって祝福を祈りました。ルツはボアズの親切と配慮で麦の刈り入れの間中、有り余る落ち穂を集めることが出来ました。

一方、姑のナオミは、ルツの自分に対する忠

実な愛に、何としても報いたい。ルツを幸せにしたい一心でした。ナオミは、そこで一計を案じました。大麦の刈り入れが終わると、今度は穂を打って実と殻を分けるのですが、その作業は夕方に吹いてくる西風を利用して行われました。農夫にとって収穫ほど嬉しいものはありません。その日は作業が終わると、雇い人達を労うために、お酒や御馳走が振る舞われます。主人は麦打ち場で夜を過ごします。

ナオミはボアズの畑の麦打ちを待っていました。彼女はその日を知ると、ルツに言いました。3章1節で、

「わたしの娘よ、わたしはあなたが幸せになる落ち着き先を探して来ました。」

ナオミはずっとルツの幸せを願って神様にその道が開かれるように祈ってきたのです。そこで導かれた計画は、親戚としての義務があり、何よりも神様を信じ、高潔で親切なボアズに、ルツの保護者、夫となって貰うことです。ナオミはその為はどうしたら良いか、色々な方法を考えたに違いありません。そして、誠実なボアズは、必ずナオミの期待に応えてくれると確信した方法をナオミはルツに話しました。今日のモラル感からは未発達の前12世紀ごろの考え方によるものです。

3章2節に、

『あなたが一緒に働いてきた女達の雇い主ボアズはわたしたちの親戚です。あの人は今晚、麦打ち場で大麦をふるい分けるそうです。体を洗って香油を塗り、肩掛けを羽織って麦打ち場の下って行きなさい。ただあの人が食事を済ませ、飲み終わるまでは気付かれないようにしなさい。あの人が休むとき、その場所を見届けておいて、後でそばへ行き、あの人の衣の裾で身を覆って横になりなさい。その後すべきことは、あの人が教えてくれるでしょう。』

ルツは

『言われるとおりにいたします』

と言い、麦打ち場の下って行き、姑に命じられた通りにした

とあります。

一方ボアズは、ふるい分けた麦が盗まれたり

する事が無いように、食事をし、飲み終わると、山と積まれた麦束の端で眠りました。イスラエルは昼と夜の寒暖の差が大きく、ボアズは寒気で目が覚めました。当時のイスラエル人の上着は寝具でもありました。ボアズは上着を探すと、足元に女性が休んでいる事に気づき、慌てて、

「お前は誰だ」

と尋ねました。ルツは、

「わたしはあなたのはしためルツです。どうぞあなたの衣の裾を広げて、このはしためを覆って下さい。あなたは家を絶やさぬ責任のある方(法的贖い人)です」

と言って懇願しました。

ルツはボアズに、

「あなたの衣の裾を広げて」

と保護を求めています。ボアズはルツと初めて出会った時に、2章12節で、

「イスラエルの神、主がその御翼のもとに逃れて来たあなたに十分に報いてくださるように」

と言った、あの御翼と衣の裾は同じ言葉です。共に保護する事を意味しています。神様はボアズ自身が言った言葉を、

『彼自身実行出来るか』

と問うておられます。ボアズは10節で、

「わたしの娘よ。どうかあなたに主の祝福があるように」

と答えました。ボアズは神様を信じ、人間の真価、尊さが何処にあるかが分かる素晴らしい人物でした。ルツの行為に対して

「今あなたが示した真心は、今までの真心よりも勝っています。」

「わたしの娘よ、心配しなくていい。きっと、あなたが言うとおりにします。この町の主だった人は皆、あなたが立派な婦人である事をよく知っている」

と答えました。

ボアズはこれらの言葉を、場を繕うために言ったものではありません。真実真心から言っているところに、ボアズの偉大さがあります。

しかし、ここで一つ問題が出て来ました。

「家を絶やさぬ責任のある者」

と言うのは、買い戻し人、贖い人とも呼ばれました。土地は神様から与えられたものだという考

えから、各氏族は、親戚どうし、相互連帯で、土地を守って行く責任がありました。経済的困窮から、土地を売らなければならない状況や、売ってしまった時、親戚はその土地が、他の氏族に渡らない様にしなければならない責任がありました。その責任は血縁の近い順番でした。

実はエリメレクに対して、ボアズよりも近い親戚がいたのです。ところで当時の町の構造は、人々は城壁に囲まれた中に住んでいました。畑は郊外にありました。人々は城壁に設けられた門から出入りしました。門の手前は広場になっていて、裁判や交渉、物品の売買など問題の解決は全て、そこで行われていました。朝になり、ボアズはいち早く、町の門に向かい、目当ての親戚の人を待ちました。折良く彼も町の門にやってきました。ボアズは彼を呼び止め、問題解決の承認に必要な10人の長老を集め、話し合いに入りました。

3節から、

「ボアズはその親戚の人に言った。

『モアブの野から帰って来たナオミが、わたしたちの一族エリメレクの所有する畑地を手放そうとしています。もしあなたに責任を果たすおつもりがあるのでしたら、この裁きの座にいる人々と民の長老たちの前で買い取って下さい。もし責任を果たせないのであれば、わたしにそう言ってください。それならわたしが考えます。責任を負っている人はあなたのほかになく、わたしはその次ぎの者ですから。』

この申し入れに親戚の人は、自分が買い取ることを承諾しました。

「するとボアズは続けた。

『あなたがナオミの手から畑地を買い取る時には、亡くなった息子の妻であるモアブの夫人ルツも引き取らなければなりません。故人の名をその嗣業の土地に再興するためです』

とあります。当時のしきたりとして、兄が子供を残さずに亡くなった時は、弟は兄が残した妻と結婚して、最初に生まれた子供に兄の名を付けて、兄の嗣業を守らなければなりません。ボアズも親戚の人もナオミの子供ではありませんから、本来から言えば、その義務はありません

が、ボアズはそこまでの責任を感じることの出来た人物だったと言うことです。

親戚の人はボアズに答えました。

「そこまで責任を負うことは、わたしにはできかねます。それではわたしの嗣業を損なうことになります。親族としてわたしが果たすべき責任をあなたが果たしてくださいませんか。そこまで責任を負うことは、わたしにはできかねます。」

そこで、ボアズは長老と全ての民に言いました。「あなたがたは、今日、わたしがエリメレクとキルヨンとマフロンの遺産をことごとくナオミの手から買い取ったことの証人になったのです。また、わたしはマフロンの妻であったモアブの夫人ルツも引き取って妻とします。故人の名をその嗣業の土地に再興するため、また故人の名が一族や郷里の門から絶えてしまわないためです。あなたがたは、今日、このことの証人になったのです」と宣言しました。

ボアズは親戚の人のように、自分の嗣業が損なわれる事を恐れませんでした。ボアズの勇気ある生き方に、町の長老を初め、人々は祝福の言葉を贈りました。ボアズはこうしてルツを妻に迎え、男の子が誕生し、その子はオベド(仕える者)の名前が付けられ、ナオミの養子となりました。周りの女性達は

「主を讃えよ。主はあなたを見捨てることなく、家を絶やさぬ責任のある人を今日お与え下さいました。どうか、イスラエルでその子の名があげられますように。その子はあなたの魂を生き返らせる者となり、老後の支えとなるでしょう。あなたを愛する嫁、7人の息子にもまさるあの嫁がその子を産んだのですから」

と神様の祝福を讃えました。

さて、ナオミもルツもボアズも、3人に共通するところは、神様を信じ、神様に全信頼し、神様に自分の全存在を委ねている事です。そして彼らは自分の幸せではなく、他者の幸せを心から願い、その為に自分を差しだしています。これこそ、神様御自身の愛の御性質を映し出しています。神様はその様な人を愛し、ご自身の御

計画を進められました。

3章18節の前に、標題として、

「ダビデの系図」

と記されています。人類救済史は、アブラハムから、ダビデに集約されて行きます。ボアズとルツは、そのダビデの血筋を産み出す命を繋ぐ夫婦に選ばれたのです。ボアズはエリメレク一族のために自分を差し出しましたが、神様はそんなボアズの名を、ダビデの曾祖父として、救い主メシアの系図にその名を記されました。

イエス様はマタイ福音書16章25節で、「自分の命を救いたいと思う者は、それを失うが、わたしのために命を失う者はそれを得る」

と言われました。神様の御性質は、真実の愛です。それ故に御子イエス・キリストを世に遣わし、イエス様は十字架上で人類の罪を贖って真実の愛を示されました。神様は御自身に全信頼し、御自身を愛する者を通して、人類救済史を導いて来られ、さらに導き続けておられます。私達は、神様から愛を受けるばかりでなく、ナオミやルツ、ボアズのように、愛を与えることによって、人々の救いに仕えて行く事が出来るように、聖霊の力を求めて参りましょう。

お祈りを致します。

罪人である私達を限りない愛をもって愛し、御子イエス・キリストを救い主としてお与え下さった天の父なる神様。

あなた様のこの深い愛を、心から感謝します。私達もまた、ナオミやルツ、ボアズのように、神様の御愛に答え、他者を愛することによって、人々の救いに仕えることが出来る者とならせて下さい。

呉教会が神様の愛に支配される教会となりますようにお導き下さい。

尊い救い主イエス・キリストのお名前によってお祈りを致します。

アーメン。